胸部約三百名の**祭集**

る人が出氏の心底にはこの野口氏の舌繋が、傷ばれるだらう、膿み事業半にして得た病を違く内地に養ってゐるのだ、嫉嫉を職み上げ

水豊發電所の完成記念發電記念式が

長沙完全に占領

更に敗敵を急追 粤漢線東方に大殱滅戦

東側地區を急追中であるは一部兵力をつて城内部勢行うともに主力は粤漢線 万に突入した足滅、村井部隊は直ちに新開、郷武関門を確保し目万に突入した足滅、村井部隊は直ちに新用、郷武関門を確保し日

潰走の敵粉

車主力を捕捉壯烈なる大殲滅戦を展出た艦隊、今村の急隊は八日蘭來同河南岸にの艦隊、今村の急隊は八日蘭來同河南岸

一覧人により

・第8年、森田、杏、小浦その 曲・第8年、森田、杏、小浦その 曲

問無要一千歳を密進した、敵

一はかのもも流激 隊部○○るす進驀へ沙長路 芝那派遣軍報 道部長談 (中半日年

思ふ存分に殲滅せん の援軍歡

水路を啓開

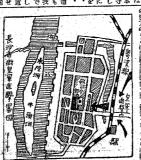
略後 も幾さじと旅跡田の標準各部隊は 平野 | 田に散験世影路戦場軍最後の一兵

七脚を脳呼、同方面を

氣心中央突破

見事に敵の裏をかく

立たなかつた



【ペルリン廿七日同盟】ドイツ軍 も繼續せん

獨軍冬季作戰

大自然を制壓

アラン著命木・清澤 Be 門・三八四日・藤高安

「水豐にて坂本特派員發」

「魔鬼廿八日回風」南文軍十八日正午後表―町に九月廿四日以来北北方町に大条館に観を置づ中なり、「魔鬼廿八日回風」南文軍十八日正午後表―町に九月廿四日以来北北方町に大条館に駆っている記述を含っておい方町に新作町を原用、着大町県か町大中である。前にすって原北本よび西北方町に対方町に新作町を原用、着大町県が町である。前にすって原北本よび西北方町に対方町に新た町の、着大町県大町である。前にすって原北本よび西北方町に大条館に関って町もなく去る中四日以来近めにさんぐくに行ちのめられた相切のにとしてその東側は、着大町県北北市町に大条館に町を置づ中なり、「東東廿八日回風」南文軍十八日正午後表―町に九月町四日以来北北方町に大条館に町を置づ中なり、「東東廿八日回風」南文軍十八日正午後表―町に九月町四日以来北北方町に大条館に町を置づ中なり、「東東廿八日回風」南文軍十八日正午後表―町に九月町の日日以来北北方町に大条館に町を置づ中なり、「東東廿八日回風」南文軍十八日 正午後表―町に九月町の

雷七十

敵軍忽ち潰亂遁走す

北江方面

に新作

胸間に跳かして出迎人一同に 響手の響をな

國境障壁を除去 日滿經濟發展心貢献 辭祝督總南

蔡滿洲國經濟相祝辭

遠く職館の藍栗中心地帯に会電し | れるは鹿栗開發の 進版に 一大原



劃期的な大事業

寄興せば幸甚 國防國家建設に するのは日曜一第一心と

私は本日の磁能に臨み時に今日 精神を建張して有終の一番は本日の磁能に臨み時に今日 精神を建張して有終の

長社口野

界四回配本 第五卷 配本開始!

文 全十二卷

ランケ著 溝邊龍雄譯 局紙上繋・定費・同五〇修送料十二銭 局紙上繋・定費・同五〇修送料十二銭 リドリジ大王

吉江喬松全集第三回配本

背条に i 戦のゲ・ベ・ウ 背条に i 戦のゲ・ベ・ウ る。 それには一つの増中る。 それには一つの増中

白水社 新刊》版 出版日錄送至 顯然時間 語為沒養

聖画點刺短篇集 振巻東京二九六三九番 とり、「人」、「十里兄・日本橋・吳服儒」と

第二回転 **型 想 部 落** 第三章本大る日來る日

総生を政治に捧げて尚鬱然たる一老政治家が一讀卷を指く 能はなかつたと云つて、わざく、作者に求めて歌を交へた 逸話がある。石田三成を英雄として描いた作品は少なくな い。しかしこれを、一代の大以治家として描き、現に政界 の旋に浮沈した政客をして其の情熱を吸び覺まし、運命の 動語を感ぜしめた如き名作は本書を措いて他にあるまい。 しかしたのとは一般である。 尾崎文學の光彩陸離たる傑作である。 尾崎文學の光彩陸離たる傑作である。 尾崎文學の光彩陸離たる傑作である。 足崎文學の光彩陸離たる傑作である。 足崎文學の光彩陸離たる傑作である。 足崎文學の光彩陸離たる傑作である。 足崎文學の光彩陸離たる傑作である。 足崎文學の光彩陸離たる傑作である。 ととは近代年95~8年まらい女学の有がたる来して表の時 るのを続けた。この世界の一人生物港」である。(第四 種)

各機關を總動員

水も漏らさぬ指導阿

の興趣の結果は程だ自給肥料の不足を

速成增產

運搬蒐集合理化

部落聯盟を總動員

十萬賦の自給肥料を一の最後とする第三回増産運動は本

臨時慶和管理令に依り制限され 林檎園經營に就て

本年から積極化

山野草と厩肥で

自給肥料の増産

【咸典】増米計器と一六、一貫とし五年後これが計器元 五ケ年計畫を樹立

態勢を整へてゐる、これが増産連







海黄

る第二期計畫のもとに作付入千 | ベコメイ よりはつううかげる 現に、更に十一年から廿年に至 庁瓊脈蜒螂と 現し、更に十一年から廿年に至 庁瓊脈蜒螂と

灰肥、液肥の利用期す

專任技手を増員

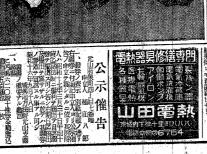
五ケ年計畫を貫徹 | 西州の東郷につき図 | 年まじを一班とした野将郷が計画 | 田瀬の東郷にのき図 | 年まじを一班とした野将郷が計画 | 田東の東に総文書館と書物の東郷

150

森川

(八五が無限が同丁二地線門通報的大 會 語 ンリ デ ヱ (本上人工的民族) 目

増産目標を確立 百五十貫 堆肥の確保を圖る 堆肥增産に凱歌學る 緑肥屋子の 自給自足 濃厚指導に大量 以つて第二次自給肥一、堆肥十年次計圏に広るが年度







底力を發

代案本の変型込は「① 進内つ・内立めがス ② 学を入義流成・一でグ ③ 大変見がり 通中

牛原皮製革手續

おいに原料紙の 雪給 状況 (受象)

卒が學中にパツ

就て 夾會 CR

給は形分

へ 黒木時 合事務の合事務の

獨學時

製油機械 拟鹭店

nj 則

Ä

安治末亡人は雪儿さんと共にダム。発氏顕彰傅建設地」に指でた後継

参列の安倍未亡人は語る

、この盛儀を一目主人に

、ゴオン唸る轟音を肴に

【寫眞=(上)は水豊發電所の記念式典場

(下)は記念式典」に参列 祝杯を舉げる

モルモット死なず

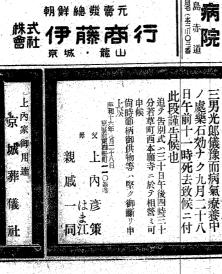
興安丸のガス中毒事件調査の

虎の如き信念、産報生みの親

渡御式延期京城神社の

朝鮮總裝帶元





碧空を截る高壓線 新き 視察する 南總督

式場に黑枠の額 世紀の

「葉隂の功勞者安倍氏

この住き日今は亡し

水鹽發電記な式墨行に際して廿八

氏に感謝狀

常質差別の場合は秩子を成ち 四、同質者は像め申合事項を研

十月常會」は有意義に

100人番 院長 七人 本市 道



哉も計り難く乍略儀以紙上御厚禮申上候一般出火の際は早寒御馳付消火に御盡力下晚出火の際は早寒御馳付消火に御盡力下

所

朝鮮空素肥料株式會社

に川地方 晴れ一時動り東城地方 戦り後晴れ



9: (19.1)















員の活躍は目記しかった

けふの天氣

所面洗





海般調工







